

公立八鹿病院組合あり方検討委員会 第1回会議議事要旨

1. 日時 令和8年9月1日（火）13時30分～15時30分
2. 場所 公立八鹿病院3階 第1講堂
3. 出席者 石田委員、木下委員、佐藤委員（オンライン）、熊田委員、廣本委員、
吉川オブザーバー、井上オブザーバー、穴田オブザーバー
〔欠席：正垣委員〕
4. 次第
 - (1) 開会
 - (2) 管理者あいさつ
 - (3) 委員紹介・委員長選出
石田委員を委員長に選出
 - (4) 議 事
※以降は非公開にて開催
 - ① あり方検討の目標とスケジュール等について …「資料1」
 - ② 各施設の現状・課題について …「資料2」
 - ③ 意見交換

〔議事要旨〕

(1)あり方検討の目標とスケジュール等について（資料1に基づき事務局から説明）

① あり方検討の目標

短 期：経常収支10億円の改善（取り組み3年目〔R11〕の経常収支均衡）

中長期：2040年に必要とされる体制を視野に入れた基盤づくり

② 検討の前提

- ・ 構成市町等の行政や但馬医療圏域の関係機関との調整を図りながら進める。
- ・ 独自に取り組める経営改善は、上記にかかわらず積極的に取り組む。
- ・ 客観的、専門的見地から助言を得るために「あり方検討委員会」を設置し、その助言を尊重して今後の実施計画を推進するなど。

③ 委員会スケジュール

令和8年9月から令和9年6月（予定）

(2)各施設の現状・課題について（資料2に基づき事務局から説明）

(3)意見交換（提出資料に基づいた意見交換）

■主な意見

◇八鹿病院

○医師確保

- 新臨床研修医制度及び新専門医制度の中で、医師の確保状況が大きく変化してきていると思われる。

○地域連携

- 豊岡病院との地域連携は一定図られていると思われる。

○人口動態

- 75 歳と 85 歳では手術適応等が異なる。この地域の 85 歳以上の超高齢者がどれだけ増えていくのか、データを次回提示していただきたい。
- 2035 年までは豊岡病院と八鹿病院で下り搬送的な流れで地域包括ケアを構築していくと思われる。2035 年以降は、訪問診療ができる医師をどれだけ確保するかという形も模索しないといけないのではと感じた。
- 今後は、さらなる高齢化により、介護の手が大きくかかるようになることから、交通の便も含めて考えると、外来患者数は予測以上に減少すると想像される。

○患者動向

- 救急車の来院数について、地域で受けるべき患者数のどの程度を受け入れているのかデータがあれば知りたい。
- 地域医療構想において、この地域は回復期病床が不足している中で、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟の病床利用率は少し低いと感じる。
- 回復期で心臓リハビリテーションを実施する流れになっており、心不全患者も一定数あり、循環器内科で診れる患者数を増やすのも可能かと思う。

◇村岡病院

○患者動向

- 救急搬送患者数が少ないが、病院の目的、機能から課題として取り上げる必要はないと思う。

○経営環境

- 地域の在宅医療を支えることが役割だと思うが、規模感から構造的に赤字になるイメージがある。

◇老人保健施設

○経営環境

- 介護事業経営実態調査では、老人保健施設の直近の経営状況は全国平均でマイナス。民間でも赤字が大多数を占める状況で、公立での黒字化はかなり厳しく、今回の状況は構造的課題が多い。
- 老人保健施設の機能の今後の必要性について、地域事情に応じた質的評価でリサーチしながら、今後のあり方を検討していただきたい。
- 公的で運営する必要性について、民間の参入意欲も総合的に分析しながら、今後のあり方検討を進めていただきたい。
- 厚生労働省は、2040 年までに人員の省力化目標を掲げている。生産性向上に関する取り組みを経営計画に入れることが必要。

■質 疑

◇八鹿病院

- 医師の確保状況について
→指導医クラスの医師が減少している。寄付講座、兵庫県の養成医の派遣、病院組合の修

学資金制度等により医師確保に努めている。

- 看護専門学校卒業生と看護師確保について

→昨年度は卒業生の多くが入職したが、退職者数がそれを上回り、看護師数は減少した。

令和7年度末から一病棟閉鎖して効率的配置を実施した。

- 豊岡病院から医師の応援について

→小児科など複数科での応援(週1回)と脳卒中連携パスによる脳外科医の回診応援を受けている。

- 豊岡病院からの紹介について

→主に回復期病床への患者紹介である。

- 回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟の病床利用率について

→回復期リハビリテーション病棟は、豊岡病院からの転院患者数に連動して変動し、地域包括ケア病棟は、院内の急性期疾患の患者数に連動する。

◇村岡病院

- 救急車による受入患者について

→かかりつけ在宅患者の容態悪化による救急搬送が殆どである。

- 設置の目的について

→公立八鹿病院村岡分院として設置されたが、医師の減少により、現在は、地域の在宅医療と訪問診療のバックアップ的な入院機能が主なもので、地域包括ケア病床を主に運営している。

- 高齢者救急への機能転換について

→時間外の検査体制が必要で、人材確保が難しい。

地域包括医療病床を検討するも時間外の対応が難しく、在宅医療、地域包括に特化した経緯がある。

◇老人保健施設

- 稼働率について

→4月以降で1日平均84人程度。今年度職員数が減少し、このような利用者数で推移している。

- 地域性による施設に対するニーズについて

→リハビリ重視の方が多い。特殊浴槽を有しており、需要はある。

- 常勤の介護職員が少し多い状況について

→非常勤職員を募集しても確保できなかったことから正規雇用化が進み、常勤の正規職員が増加した経緯がある。

☆まとめ

〔八鹿病院〕

- ・病院建設時の想定を大きく上回る高齢化、人口減少により現状が合わなくなってきている。これからの10年、15年後の予測を立て、短期目標の10億円の改善とともに15年後の社会状況に合わせた医療提供を今後考えていくことになる。

〔村岡病院〕

- ・現状維持でいくのか、ダウンサイジングが時代の要請に伴って必要になっていくのかを議論していくことになる。

〔地域連携〕

- ・豊岡病院からの下り搬送、救急現場からトリアージによる高次機能病院への搬送と連携がとられている。今後、豊岡病院組合との連携をどのように考えていくのが重要課題になる。

〔老人保健施設〕

- ・厳しい状況におかれているが、定量的評価だけでなく定性的な評価を今後行っていきたい。